

# 説明文の内よつを読み取る

名前	組 番		月 日	正答数
				2

ねらい

●書かれていることを正かくに読み取る。

## 問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

〔ウラギンシジミというチョウは、葉のうらにとまって冬をこします。〕

つぎの年、さらにたくさんウラギンシジミをみつけると、こんどは、なぜ、号令をかけたように、おなじ方向をむいてとまっているのだろうか、という疑問もでてきました。

おなじ場所で冬ごしをしているウラギンシジミを何びきかみつけると、きまって頭を葉さきのほうにむけて、からだのむきをそろえるようにしてとまっています。一枚の葉を二ひき、おおいときは四ひきも利用しているばあいがあったのですが、そのときもなかよくならんでいるのですから、ふしぎでたまりませんでした。

（きつと、ウラギンシジミがこのむとまり方があるにちがいない。そして、なにか理由があるのではないだろうか。）

そうかんがえて、どの方向をむいているか、方位磁石をもちあるいてしらべてみました。すると頭を、南東、南、南西にむけてとまっているものがおおいことがわかりました。

ウラギンシジミは、南むきの、日だまりのような場所の木でおおくみつかります。また一本の木でも、北むきの日あたりのわるい枝の葉にはあまりいません。そのような条件で、頭が南方向をむいているということは、東のほうからと、西のほうからの光がよくあたるといことです。つまり、朝夕、気温が低いときに、羽によく太陽があたります。

気温が低いと、まったくぐくこともできないウラギンシジミが、太陽の光をうまくつかって、できるだけからだをあたためておこうとしているのではないのでしょうか。

（高柳芳恵「葉の裏で冬を生きぬくチョウ」より）

◆読解のポイント①◆

①たいせい ②どんな疑問について書かれているかをとらえましょう。

①疑問は、文章の初めのほうに書かれていることが多い。

②疑問は、「……(だろう)か。」という形でしめされることが多い。

「なぜ、号令をかけたように、おなじ方向をむいてとまっているのだろうか」

- (1) ふしぎでたまりませんとありますが、何がふしぎなのですか。次の□にあてはまる言葉を文章中からぬきだしましょう。

ウラギンシジミは、なぜ

方向をむいてとまっているのか。

◆読解のポイント②◆

①たいせい ②しらべた結果をもとに、どんなことを考えたかを、読み取りましょう。

①しらべた結果

・南むきの木でおおくみつかる。

・北むきの日あたりのわるい枝の葉にはあまりいない。

②しらべた結果

・頭が南方向をむいている。

=

朝夕、気温が低いときに太陽にあたる。

③考えたこと

気温が低いと、まったくぐくことができないウラギンシジミが、太陽の光をうまくつかって、からだをあたためておく

うとしているのではないか。

- (2) ①朝夕、気温が低いときに、羽によく太陽があたりますとありますが、このことから、どんなことを考えましたか。次の□にあてはまる言葉を文章中からぬきだしましょう。

ウラギンシジミは、気温が

と、まったく

こともで

きないので、太陽の光をうまくつかって、できるだけからだを

ておこうとしているのではないか。

説明文の内よつを読み取る



(1) おなじ  
(2) 低い・うごく・あたため

(1) 初めから読んでいくと、ウラギン  
シジミが「おなじ方向をむいてと  
まっている」ことに注目しているこ  
とがわかります。  
(2) 最後の段落に、観察をして考えた  
ことが書かれています。